

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス チャイルドハート大在		
○保護者評価実施期間	2024年 11月 20日		～ 2024年 12月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	2025年 1月 7日		～ 2025年 1月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 1月 31日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な場所やイベント等に参加し、実際にSSTの学びをおこなっている ・公園等での戸外遊びを多く取り入れている 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共の場でのイベント参加を積極的に行っている ・発達段階に合わせて公園を選んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関や買い物支援等の経験を多く取り入れてスキルの習得をめざす ・利用する子どもによって行き場所を変える
2	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様のニーズを取り入れえた支援を行なっている(ADLの向上や自立に向けての生活動作) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様にも活動に参加してもらい、できるようになった事や課題について共感し、共通理解が得られるようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者様同士のつながりが得られる場を設け、悩みや課題に対して一緒に考えたり共感できるような機会づくりを行なう
3	<ul style="list-style-type: none"> ・小集団でのグループ活動を行い、地域の保育所・こども園・幼稚園・地域の小学校、支援学校への移行をめざしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に合わせて、活動プログラム(集団療育や個別療育)を考え提供している 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおよその発達段階を考慮し、それに見合った年間計画を立てる ・年間を通して年齢に合わせたコグトレの計画をする

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者によっては、個別に対応できる部屋が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会などを開くときにいつもより来所人数が増え、活動するスペースが狭くなる ・パニックや痙攣等があった時に、プレイルーム内で他の利用者との分離が難しい時がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会を行なう場合は、近くの公民館を借りる、活動プログラムを検討するなどして対応していきたい ・フリーで使えるような場所を確保するために、備品や物の整理をこまめにおこない、スペース確保をしていきたい
2	<ul style="list-style-type: none"> ・男性職員がいない 	<ul style="list-style-type: none"> ・求人を出しても男性職員の応募がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・チャイルドハートの大分市エリアのチャイルドハートに勤務している男性職員との交流をしていきたい
3	<ul style="list-style-type: none"> ・支援員のスキルの向上をしたい 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育経験のある職員が少ない ・話し合いや指導の時間確保が難しい ・自信を持って立ち振る舞える職員が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員研修や勉強会を開催し、必要な知識を習得して自信を身に付けていく ・支援前後での振り返りを行ない、次につながる指導ができるように職員間での学びの場を設ける

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		チャイルドハート大在				公表日	2025年2月15日	
環境・体制整備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		パーティションやサークルを作って個別の空間づくりを行なっている。荷物や備品を移動するなどしてスペースの確保を行なっている。	日々の活動プログラムの立案と担当支援員の検討に時間がかかっている為、今後スムーズに行えるようにしたい。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の数配置は適切であるか。	7	1	戸外活動が多く、公園等では見守り担当支援員が不足する日があるため、同系列の他事業所支援員に手伝いに来てもらい安全に過ごせるように配慮している。	利用希望者数と、配置は足りているが実際に必要な職員の確保が難しい日があるため、利用を保留にしている時もある。その日の利用者に合わせてプログラムを考え、お預かりできる方法を検討している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		利用児の名前をひらがな表記し、個人マークで表示することで、私物管理できるようにしている。毎月の就立をひらがな表記で掲示し、いつでも見られるようにしている。	玄関とプレイルームの区切りがない分、子どもが靴のまま入室することがあるので、カラーテープで区切りを視覚化しているが、わかりづらい部分もあるので、改善策を検討している。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		すべてのおもちゃの消毒を行っている。窓を開けて換気を必ず行い、空気洗浄機を利用して清潔を心掛けている。	活動内容によっては年齢や発達段階ごとに部屋を使い分ける工夫をしていきたい。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7	1	個別に対応する部屋が必要な時には、別室の環境を整えて提供している。	クールダウンする場所や個室の確保が難しいので、別室の荷物を移動して部屋を作り確保している。いつでも利用児が使える場所の確保が難しい時もあるので、今後検討していきたい。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		毎日の朝礼、終礼で全員で情報共有をしている。非常勤の職員にもラインを使い知らせている。	支援前、支援後の限られた時間の中で情報共有や共通理解できるように業務改善を進めている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		保護者様には本部に送っていただくようにしているため、本音で伝えていただけていると感じる。	保護者様からの意見は真摯に受け止めることができ、すぐに対応している。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		話しやすい職場環境を整え、職員間で事例や支援について、行事、イベント等について話し合いをする時間を設けている。	自分の考えを他者に伝える力をつける、自分で考えてやってみる等の工夫等をしていきたい。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7	1	定期的なFC本部が外部評価を実施し、指摘された箇所の見直しを行ない、業務改善に努めている。	第三者による評価について知らない職員がいた。今後は周知していきたい。		
10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		毎月FC本部のリモート研修を受講している。3~4ヶ月に1度チャイルドハート大分市エリアで職員研修を行ない、支援の仕方や他機関の方の講義を受けて資質の向上をめざしている。	研修内容をいつも同じ職員が決めるので、今後は研修委員会を設けいろいろな角度からの学習ができるようにしていく。			
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7	1	支援プログラムをホームページで公表している。インスタなどのSNSでも発信している。	支援プログラムについて知らない職員もいた。誰が見ても理解しやすいプログラムの方法を今後検討していく。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		モニタリングごとにアセスメントを行っている。全職員で持ち回りをしてみんなで共通理解としている。	アセスメントの内容を適宜変更していく。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		保護者様との面談、モニタリングは児童発達支援管理責任者が主に行っているが、支援計画作成会議で支援員と一緒に振り返りや目標等を考えている。	個別支援会議の時にもう少し踏み込んだ話ができるように職員が参加できる時間を確保する。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		毎朝の朝礼で一人一人の支援内容の確認をしている。	実際に現場に出るとつい忘れてしまうことがあるので職員に対しての支援の見える化をする。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		標準化したツールを利用している。	非常勤職員に個人ファイルを見てもらうことはあるが、詳しく説明することがなかったので今後はしっかりと伝えていく。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		令和6年4月よりの計画書は5領域の計画としている。	運営指導により都度、標記の仕方を変えている。今後は新しい様式で計画書を作っていく。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		毎月ごとに職員会議を行い、活動プログラムを考えている。また日々の中でも個々にめざすべき課題が出て来た時に、職員間で話し合ってプログラムに取り入れている。	何時も同じプログラムだけでなく常に職員がアンテナを張っているような情報をキャッチできるようにする。		

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		職員それぞれがいるところから情報を集めてきている。	お子さんによっては固定化したほうが良いこともあるので、十分に配慮して活動プログラムを立てるようにする。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		集団活動の中でも個別に合わせて課題を変えて実施している。また専門的支援などで個別の支援を行っている。	コトトシや個別の活動時間（机上課題）の取れない日が多いのでバランスよく活動を取り入れていく。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		朝礼では一人一人の利用児童についての課題を確認し、支援方法を共有している。職員配置をしっかりと決めている。	職員配置を決めているが、臨機応変に変更できるように職員同士で声掛けが行えるようになるのが課題である。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		終礼でその日の活動反省、支援についての良かった点、悪かった点を出して次の支援へとつなげるようにしている。	公休の支援員にも伝わるようにグループラインを利用して全職員に伝わるようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		支援記録をしっかりとっていくことで、支援の振り返りや改善点等を検討・確認し日々の支援に生かせるようにしている。	データで記録の保持をしており、非常勤職員への周知が難しいのでその日の業務日誌にも周知内容を記載してLINEしているため、職員間で協力して今後も行っていきたい。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8		職員全員でモニタリングを行い、保護者様の気持ちや思いをみんなで共有できるようにしている。	お休みの職員には記録した書類を見てもらっているが、書面では伝わらないニュアンスなどは言葉で伝えていきたい。	
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	1	OT期間の職員を中心に交代で会議に出席している。会議に出席することで子どものことをより深く理解しようとする支援ができる。	非常勤職員への周知が書類のみとなっている。口頭での伝達があればより伝わるることができる。
		25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		周りのある社会資源とはケース会議などを行い連携をとっている。	医療関係者との連携は取れていないので今後は連携が取れるようにしていきたい。
		26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		モニタリング評価表をお渡ししてチャイルドでの目標に対しての評価や様子を知らせている。また、要望によりケース会議を行い情報共有を行っている。	チャイルドがお迎えに行けない幼稚園に関しては保護者を通してしか情報が入らない、どのようにして情報共有を行っていけばいいのかが思案中である。
		27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		入学後に先生にお伝えできるように、療育のまとめを作成して児童発達時の様子をお知らせしている。	小学校入学までに直接お会いして会議などは開けない現状がある。
		28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
		29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
		30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
		31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	7	1	(無回答4) 小学校入学に向けての事で教育委員会にお聞きしてアドバイスをもらったり、相談支援員さんからの情報をもらったりしている。	地域のセンターと連携は取れていない。何かあるときには相談していきたい。
		32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	7	1	保育所や認定こども園、幼稚園等の交流の場は持っていないが、公園や地域イベント等に参加して同年代のこどもの交流できる場を作っている。	こども園、幼稚園との交流はなかなか難しい。
		33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7		(無回答1) 送迎の際に保護者様とその日の活動について報告している。また、保護者様からのご意見などもお聞きしている。	支援員が一人一人の子どもの発達について同じ理解できているか、伝えられているか疑問。個別支援会議で共通理解がしっかりできるようにしたい。
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	7	1	保護者参観を設けて家族間交流の試みや関係づくりをするとともに、相互の悩みや子育て情報が交換できる場を作った。	職員がペアレント・トレーニングの理解があまりないので、まずは職員間での学びの場を設ける。また外部講師を呼んで保護者向けの研修なども行っていきたい。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		契約の際に話をしている。	特に大切なことは契約書にマーカーで印をつけておくなどしてよりわかりやすくしていく。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		モニタリングの際に保護者様の意向をお聞きしながら一緒に目標を立てている。	子どもの意向がはっきりと聞けない分、保護者様中心になってしまいがちである。気を付けていきたい。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		職員全員が保護者様にお話ができる機会を作っている。	児発言ばかりでなく、支援員としての説明ができるように気を付けている。	

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		モニタリングを行う時に同時に家族支援を行っている。	職員全員の前で話ができないときには個室で話をするなど配慮をしておく。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7		(無回答1) 定期的に保護者参加型のイベントを行っている。兄弟児も一緒に活動に参加できるプログラムを考慮している。	保護者、兄弟児も楽しめる活動を常に考え、いつも同じパターンにならないように工夫する。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		保護者様からのご意見等があった場合は職員会議を開きすくに対応している。	職員同士の報連相が行えるようにするために朝礼・終礼の時間をしっかりと確保し、話ができる時間を作る。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	8		毎月お便りを出している。	発行タイミングが遅くなる月もあるのでできるだけ早く情報を提供できるようにする。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8		鍵のかかる書庫に保管している。	カギを忘れるときがあるので気を付けたい
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		支援員が子どもの行動の代弁をしたり、家庭での様子を聞いたりすることで情報の共有を行っている。	予測で話をするのではなく、しっかりと事実に基づいて話ができるように職員のスキルも上げていく。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4	地域住民を招待する機会を作るのが難しかったため、地域のイベントや公共施設、バスなどの交通機関で地域参加を行なった。	地域の住民の方との交流としてイベントを考えることがないので、今後は考えていきたい。
	非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		マニュアルはある。年度初めに読み合わせをしている。避難訓練を月に1度行っている。
46		業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		策定している。	訓練ができておらず、今後は訓練のマニュアルを策定していく。
47		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	8		アトピー性皮膚炎や気管支喘息、花粉症等の症状があるお子さんがいるので、事前聞き取りを行ない個別に合わせて環境整備や活動内容を検討し安心して過ごせるようにしている	予防接種の状況は確認できていない。アセスメントの項目に付け加えるかを協議していく。
48		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7		(無回答1) 現在食物アレルギーのある子どもがいない	アレルギーがある児童や配慮が必要な児童を見える化しすべての職員が理解できるようにする。
49		安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		作成している。訓練も行っている。	安全訓練と避難訓練の区別がつきにくいので、両面からの訓練を行えるよう計画を立てていく。
50		子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		毎月1回のおたよりの中に組み込んでお知らせしている。	取り組みをした後の報告も今後はお便りで周知していく。
51		ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		少しの事でもヒヤリハットとし、記録を残している。記録は全職員が見るよう回覧している。	職員で再発防止を行うようその都度共有しているが、全職員に伝わっていないことがある。責任をもって知らせる担当を決めるようにする。
52		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		定期的に研修を行っている。（1年間でチャイルド本部が研修スケジュールを決めて行ってくれるのでその研修を必ず受けるようにしている。）	決められた研修以外にも都度、職員で考える場を設け、常に意識を高めていきたい。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		計画書に記載している。また、身体拘束を行った場合は必ず記録に残し、保護者への説明を行っている。	継続、終了を明確にし、そこに向かって支援を行っていきけるようにしていきたい。	